

第1回「日米等エネルギー技術開発協力事業」

研究資金制度プログラム（終了時）評価検討会

議 事 要 旨

1. 日 時 平成28年1月7日（木）14:00～16:00

2. 場 所 経済産業省別館1階114会議室

3. 出席者

（検討会委員）[敬称略・五十音順、※は座長]

井上 剛良 東京工業大学 大学院理工学研究科 機械物理工学専攻
教授

大西 洋 神戸大学 理学研究科 化学専攻 教授

※小久見 善八 京都大学 産官学連携本部 特任教授

近藤 昭彦 神戸大学 大学院工学研究科 応用化学専攻 教授

津本 浩平 東京大学 大学院工学系研究科 教授

藤田 俊弘 IDEC株式会社 常務執行役員 技術戦略本部長
IDECグループ C.T.O.

（研究開発実施者）

小林 哲彦 国立研究開発法人産業技術総合研究所 理事

小原 春彦 国立研究開発法人産業技術総合研究所
エネルギー・環境領域エネルギー・環境領域研究戦略部長

酒井 夏子 国立研究開発法人産業技術総合研究所
イノベーション推進本部産学官・国際連携推進部長

粟津 浩一 国立研究開発法人産業技術総合研究所
イノベーション推進本部産学官・国際連携推進部次長

高辻 利之 国立研究開発法人産業技術総合研究所
工学計測標準研究部門 部門長

倉片 憲治 国立研究開発法人産業技術総合研究所
知的財産・標準化推進部 審議役
乾 将行 公益財団法人地球環境産業技術研究機構
バイオ研究グループグループリーダー代行
伊原 智人 Green Earth Institute 株式会社 代表取締役

(事務局)

産業技術環境局 国際室 室長 武藤 寿彦
室長補佐 川口 正
課長補佐 青山 太郎
国際標準課 課長補佐 猿橋 淳子
工業標準専門職 楨 健介

(評価推進課)

産業技術環境局 研究開発課技術評価室 課長補佐 福井 克樹

4. 配布資料

資料 1 評価検討会委員名簿
資料 2 研究開発評価に係る委員会等の公開について
資料 3 経済産業省における研究開発評価について
資料 4 評価方法 (案)
資料 5-1 日米等エネルギー技術開発協力事業の概要 (国際室)
資料 5-2 日米等エネルギー技術開発協力事業 (日米先端計測技術研究
協力事業) の概要 (国際標準課)
資料 5-3 産総研における実施概要
資料 5-4 地球環境産業技術研究機構および Green Earth Institute
株式会社の実施概要
資料 5-5 産総研および電子情報技術産業協会における実施概要
資料 6-1 「日米等エネルギー技術開発協力事業」研究資金制度プログ
ラム評価用資料
資料 6-2 別添資料
資料 7 評価コメント表
資料 8 質問表
参考資料 1 経済産業省技術評価指針
参考資料 2 経済産業省技術評価指針に基づく標準的評価項目・評価基準
参考資料 3 平成 24 年度中間評価報告書 (概要版)

5. 議事概要

(1) 座長選出

委員の互選によって、小久見委員が本検討会の座長に選出された。

(2) 評価検討会の公開について

事務局から、資料2により、評価検討会の公開について説明がなされた後、本評価検討会について、会議、配付資料、議事録及び議事要旨を公開とすることが了承された。

(3) 評価の方法等について

事務局から、資料3、4、7、8により、評価の方法等について説明がなされ、了承された。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・ 検討会において質問はできないのかという委員からの質問に対して、事務局より質疑応答の時間があり、時間内に収まらない質問については質問票にて対応する旨回答があった。

(4) 制度の概要について

事務局及び実施者から、資料5-1、5-2、5-3、5-4、5-5、6-1、6-2により、「日米等エネルギー技術開発協力事業」研究資金制度プログラムの概要について説明がなされた。

主な質疑等は以下のとおり。

- ・ 海外との交流による予期せぬ効果について、委員から質問があり、研究開発実施者から当事者間でのシナジー効果でいくつか面白い結果がでているとの回答があった。
- ・ 全体のアウトカム目標値と個別テーマの達成度との関連について、委員から質問があり、事務局から、仮定はおいているが、目標に対しては達成しているとの回答があった。
- ・ 先端分野の国際標準化する上での取組について、委員から質問があり、研究開発実施者から米国との協力体制および標準化に重要な技術的なエビデンスを示せたとの回答があった。
- ・ 標準化を評価する上で、数値目標の有無について、委員から質問があり、研究開発実施者から明確な数値目標はないが、研究内容及び米国との協力体制構築について評価して欲しい旨回答があった。
- ・ 日本だけではできなかった成果について、委員から質問があり、事務局から、国際協力により効率的に進められたと回答があった。
- ・ 評価のポイントについて委員から質問があり、事務局から、参考資料2を説明した。

(5) 今後の予定について

評価コメント票の提出期限を平成28年1月15日とすることを確認した。また、第2回評価検討会を平成28年1月28日10時から開催することとした。

以上